

1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	倉敷市立福田中学校	実践者名	植崎 翔太
教科等	道徳	学年	第2学年
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 3
育成したい 資質・能力	思考力・判断力・表現力等		
単元・内容等	節度や節制のある生活とは何かを考え、自分の生活を振り返ろう		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	教科等にもよるが、生徒は端末をほぼ毎日活用している。		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
(1) 「節度とは何か？」を考えさせ、節度の定義をクラス全体で共有する。また、人それぞれで基準がまちまちであることと、他者の考えと自分の考え比較することで、自分の価値基準を広げることが大切であることを伝えた。 (2) 「夜更かし」と「食べ過ぎ」の2点について、様々な場面を提示し、生徒にテキストカードを使って、節度の良し悪しを判断させる。 肯定的な意見はピンク色のカード、否定的な意見は青色のカードに記入させて視覚的に生徒の考え方の違いを表すようにする。 (3) クラス全体のカードを表示し、友達の意見を参考にさせることで、クラス全体の意見を整理し比較する。 (4) 肯定的な意見と否定的な意見それぞれの理由を書かせ、回答共有機能を利用し、他者の意見に目を通すことで、人それぞれで、さまざまな価値基準があることを考えさせる。 (5) これまでの自分の生活を振り返り、節度のない行いをしてしまった場面を考え、これからどのように生活していくかをワークシートに記入させる。 自分の生活を節度あるものにするために、どのようなことに気を付けていくかを記述させて、まとめとした。		  	
実践者の手ごたえ		児童生徒の振り返りや反応等	
ロイロノートを利用することで、考え方や意見の比較が効果的に行えた。また、そこから自分の価値基準を広げることができた生徒もいた。 反省点として、自分と他者の意見を比較し、自分の価値基準を広げた状態で、自分の生活の中から課題（問）を設定させようと考えていたが、時間が足りず、熟考させることができなかった。		（生徒の様子） クラスの意見がリアルタイムで更新されることで、生徒が常に色々な意見に触れ、整理することができた。また視覚的に意見の違いを感じることで、新たな気づきや価値観を学ぶことができた生徒も多くいた。 （生徒の振り返り） 「自分は悪いと思ってなかったことも人によっては、否定的に捉えることがある」	